



65歳以上の高齢者が4人に1人に



総務省が毎年「敬老の日」に合わせて発表する「推計人口」によると、2013年9月15日現在の65歳以上の高齢者人口（推計）は、いわゆる「団塊の世代」の人々が65歳に達しはじめたことから、3,186万人（前年度比+112万人）と大きく増加し、総人口に占める割合は0.9ポイント増の25.0%となり、初めて4人に1人が高齢者となった。男女別にみると、男性は1,386万人（男性人口の22.1%）、女性は1,818万人（女性人口の27.8%）と、女性が男性より450万人多くなっている。

また、「こどもの日」に合わせて発表された、2013年4月1日現在の15歳未満の年少人口（推計）は、前年より15万人少ない1,649万人で、32年連続の減少となり、過去最低を更新。男女別では、男子が844万人、女子が804万人で、男子が女子より40万人多くなっている。

総人口に占める子供の割合は12.9%で、39年連続で過去最低を更新。

—表9 年齢区分別の人口—

		総数	0～14歳	15～64歳	65歳以上
人口 (万人)	男女計	12,726	1,640	7,900	3,186
	男性	6,189	840	3,981	1,368
	女性	6,537	800	3,919	1,818
総人口に 占める割合 (%)	男女計	100.0	12.9	62.1	25.0
	男性	100.0	13.6	64.3	22.1
	女性	100.0	12.2	60.0	27.8

資料：総務省「推計人口」（2013年9月15日現在）

厚生労働省の発表によると、2013年9月1日現在の100歳以上の高齢者は5万4,397人（前年度比+3,021人）で、43年連続で過去最多を更新。

このうち、女性は4万7,606人（前年度比+2,764人）で全体の87.5%を占め、18年連続で上昇、3年連続過去最高を更新。男性は前年より254人増加して6,791人だった。

国立社会保障・人口問題研究所が2012年1月に発表した「日本の将来人口推計」によると、2060年には65歳以上の高齢者が39.9%を占め、国民の2.5人に1人が高齢者になると予想されている。

